

※塗りつぶした図書は、対象期間外です。

出版社名	書名	著者名	出版年月
ダイヤモンド社	ロスジェネの逆襲	池井戸潤 // 著	2012年6月
コメント① 人気ドラマ「半沢直樹」の最終回後の展開が読めるよ！で読書好きにもそうでない子にも勧めてみたい1冊。併せてドラマ原作となった文庫2冊も勧められるし。			
実業之日本社	ガレキノシタ	山下貴光 // 著	2012年7月
コメント① とある高校の校舎が、突然崩落した。ガレキの下に取り残された生徒たちの安否は…？死を目前にして、人は何を思うのか。			
角川書店	百年法 上下	山田宗樹 // 著	2012年7月
コメント① 生きることに對して、自分で考えずにはいられない、迫力があります。			
コメント② 高校生が読むSFテイストの小説としてベスト。人生観・世界観を広げる作品。			
幻冬舎	おとうさんは同級生	澤本嘉光 // 著	2012年7月
コメント① とある事情で高校に入学したヤクザおっさんさんと、真面目な生徒たちとの関わり方が笑えます。			
中央公論新社	幸せの条件	誉田哲也 // 著	2012年8月
コメント① 農業に奮闘する主人公の姿に元気をもらえる。			
コメント② 自分が必要とされるにはどうしたらいいのかと悩んでいるなら、読んでみてほしいです。			
コメント③ 作中で震災が。働く意味を見出していき、青春お仕事小説。感じるものがあればいいな。			
星海社	サエズリ図書館のワルツさん 1	紅玉いづき // 著	2012年8月
コメント① 「データは魂、けれど魂だけじゃ抱きしめられない」という一節が心を打たれました。			
中央公論新社	空より高く	重松清 // 著	2012年9月
コメント① 何かを始めるきっかけになるような本です。			
角川書店	デッドマン	河合莞爾 // 著	2012年9月
コメント① 事件そのものの謎+死体と共に捜査するという常識では考えられないような謎が盛りだくさん。			
徳間書店	生きるぼくら	原田マハ // 著	2012年9月
コメント① ひきこもりの青年が人と関わることや米作りを通して、また前を向いて生きることができるという希望をもてる本。			
コメント② 社会からはみ出た3人が、生きる意味を見つけて再生していく姿が素敵。			
コメント③ いじめや介護などの社会問題を取り上げながらも、重すぎず温かいストーリーになっていてよい。			
新潮社	あと少し、もう少し	瀬尾まいこ // 著	2012年10月
コメント① 寄せ集めのメンバーと競技に知識のない顧問が一つの目標に向かって進んでいく温かい物語。			
コメント② 周りの目を意識しだす年齢の心の揺れの描き方がいい。自分と葛藤しながらもどうにか成長しようともがく6人の中学生。思わず応援したくなる。			
コメント③ 登場人物が魅力的。リアルな学校生活が身近で、クスッと笑える場面も。			
コメント④ 自分で思っている自分と、他人から見た自分はこんなにも違うものかという、いい意味での驚き。			
文藝春秋	64(ロクヨン)	横山秀夫 // 著	2012年10月
コメント① 空欄			
講談社	幕が上がる	平田オリザ // 著	2012年11月
コメント① これぞ、部活にかける青春！劇の場面は迫力があります。			
実業之日本社	終わらない歌	宮下奈都 // 著	2012年11月
コメント① 辛い時、全部やめたくなる時に、それでも自分を支えてくれるものの大切さを感じてください。			
新潮社	何者	朝井リョウ // 著	2012年11月
コメント① きっと共感できる部分が沢山あります。			
文藝春秋	旅猫レポート	有川浩 // 著	2012年11月
コメント① ネコと飼い主の強い絆に胸を打たれる。			
コメント② 身近な大切なものを、改めて大切にしたいと思える。			
朝日新聞出版	ことり	小川洋子 // 著	2012年11月
コメント① 小鳥の小父さんと呼ばれた人の一生が淡々と描かれています。優しくてせつない物語。			
文藝春秋	路(ルウ)	吉田修一 // 著	2012年11月
コメント① 台湾の暖かさと、絆を感じることができます。			
講談社	ボクの妻と結婚してください。	樋口卓治 // 著	2012年11月
コメント① 余命宣告された主人公が、愛する妻の再婚相手探しに奔走。笑って泣けるハートフルな物語。			
講談社	雪猫	大山淳子 // 著	2012年12月
コメント① 猫が語る物語。せつないけどいい話だった。表紙のデザインと内容がマッチしていい感じです。			

徳間書店	俺たちに偏差値はない。ガチバカ高校リターンズ	福澤徹三 // 著	2012年12月
コメント① ジェネレーションギャップへのとまどいと、優越感と、羨ましさがいっぱいにつまっています。			
中央公論新社	笑うハーレキ	道尾秀介 // 著	2013年1月
コメント① 脱落することなく、最後まで読めるおもしろさです。			
アスキー・メディアワークス	命の後に咲いた花	綾崎隼 // 著	2013年1月
コメント① 高校生が読む恋愛小説としてベスト。余韻が残る名作。			
ポプラ社	あん	ドリアン助川 // 著	2013年2月
コメント① 人生につまづき、気力をなくした主人公が再び立ち上がるまでを描いている。ハンセン病を知るきっかけにもなる小説。			
角川書店	モナミは宇宙を終わらせる？ We are not alone!	はやみねかおる // [著]	2013年2月
コメント① 人生は、俯瞰するより、行動あるのみ！を体現する主人公モナミの主観による視点が痛快です。			
アスキー・メディアワークス	きじかくしの庭 メディアワークス文庫 さ1-1	桜井美奈 // [著]	2013年2月
コメント① 「きじかくし」の庭で、それぞれが悩みを共有しながら巣立っていく。短編連作。			
評論社	沈黙の殺人者 海外ミステリーBOX	ダンディ・デイル・マコール // 著、武高橋子 // 訳	2013年3月
コメント① 発達障害の兄が殺人容疑で裁判にかけられ、妹のホープは無実を証明するために奔走する。兄妹の絆、兄の障害、ホープの恋と友情の描かれ方に無理がなく魅力的であると感した。エドガー・アラン・ポー賞受賞作。			
集英社	ジヴェルニーの食卓	原田マハ // 著	2013年3月
コメント① 絵画の見方が変わる本だと思います。			
講談社	天翔る	村山由佳 // 著	2013年3月
コメント① エンデュランスという競技を通して、多くの人々が成長する。感動…。			
河出書房新社	憤死	綿矢りさ // 著	2013年3月
コメント① 夏にぴったり、ぞわりと寒い中篇集。そこらへんのホラーより、ずっと怖いと思う。			
光文社	巨鯨の海	伊東潤 // 著	2013年4月
コメント① 生きるため、命がけで捕鯨に挑む男たちの熱くドラマティックな人生を描いており、日常から離れて、パンチのあるものを読みたい人におすすめしたい。先生からのおすすめ本。			
角川書店	切り裂きジャックの告白	中山七里 // 著	2013年4月
コメント① 警察署の目前で発生した猟奇殺人事件。その直後「ジャック」と名乗る犯人が声明文を送りつけて来た。やがて第二、第三の事件が発生し…。家族とは、命とは何か—この問いに、あなたはどうか答えられますか？			
集英社	よだかの片想い	島本理生 // 著	2013年4月
コメント① 顔にある大きなアザのせいでいろんなものをあきらめてきたアイコの、初恋をめぐる物語。			
双葉社	ランチのアッコちゃん	柚木麻子 // 著	2013年4月
コメント① とにかく、読んだら元気になります。			
コメント② 4編どれも前向きで、元気になって、お腹が減る、まさに「読むビタミン剤」。表題作に登場する「アッコちゃん」は、きちんと設定どおり、和Oアキ子を思い浮かべて読みましたよ！			
角川学芸出版	遠野物語remix	京極夏彦 // 著、柳田國男 // 著	2013年4月
コメント① 山田悠介や乙ーといったホラーが学生に人気がある中で、古典的な恐ろしさを味わってもらいたい。			
文芸社	93番目のキミ	山田悠介 // 著	2013年4月
コメント① アプリやロボットなど、現在の主流なツールが描かれているが、5年後10年後に高校生がこの本を読んだ時、古いと感じるのか…というところにひかれた。			
早川書房	バージンパンケーキ国分寺	雪舟えま // 著	2013年5月
コメント① まぶさんが焼いてくれるパンケーキがとにかくおいしそうで。甘酸っぱい三角関係もOでした。			
新潮社	聖痕	筒井康隆 // 著	2013年5月
コメント① 枕詞がとても美しい小説です。主人公がどう生きるかを、作者がどんな風に描くのかと最後まで興味深く読みました。			
文藝春秋	余命1年のスタリオン	石田衣良 // 著	2013年5月
コメント① 命について考えるきっかけに。			
PHP研究所	夢幻花	東野圭吾 // 著	2013年5月
コメント① 過去と現在をつなぐ事件が巧妙に組まれている。原発に対する、著者からのメッセージととれる部分も上手に含まれている。			
講談社	家族写真	荻原浩 // 著	2013年5月
コメント① 男も、いくつになっても些細なことで悩むんだな、という安心感。			
講談社	島はぼくらと	辻村深月 // 著	2013年6月
コメント① 教育環境はかなり違うけれど、今の生徒にも共感できる気持ちが描写されていると思います。			
コメント② 高校生たちが魅力的です。地方が愛おしくなる作品です。			

コメント③ 島の高校生4人が同級生の回りの大人と関わりながら逞しく成長していくのがいい。			
コメント④ 進路、友だち、家族、恋愛等高校時代に思い悩む要素がギュッと詰まっている。登場する大人たちも魅力的。			
コメント⑤ 主人公が高校生！			
コメント⑥ 読後感も良く読みやすい。読書が苦手なタイプにおすすめできる。瀬戸内海だし。			
文藝春秋	月下上海	山口恵以子 // 著	2013年6月
コメント① 読みやすい			
実業之日本社	総理の夫	原田マハ // 著	2013年7月
コメント① 「マハさんといえばアートミステリー」という印象がきましたが、昔から読んできた読者にとっては本書こそ「これぞマハさん」という感じではないでしょうか？女性の人生を書かせたら、ピカイチだと思います。			
講談社	祈りの幕が下りる時	東野圭吾 // 著	2013年9月
コメント① 小説の愉しみが詰まっている。思春期にこんな傑作に出会ったら一生モノ。			